

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第二小学校

【国語】

■児童の状況	○自分の意見を持ち、クラスの友達に進んで伝えることが苦手な児童が多いので、話し合いや発表に苦手意識がある。 ○説明の順序や要点、筆者の考えや主張を正確に読み取ったり、文章の表現を根拠に登場人物の気持ちを想像したりすることが苦手である。 ○自分で文章の構成を考え、相手に向けて分かりやすく書く力が不足している。 ○漢字や語彙の定着が十分な児童と、そうでない児童との差が開いている。
■指導についての課題	○自分の意見をもてるような活動や十分な時間設定が必要である。 ○日々の音読で声に出して正しく読むことを指導したり、その文章にはどんなことが書いているのか把握・理解し、要約できるようにしたりすることが課題である。 ○既習事項を定着させる時間を確保し、実生活で漢字や語彙を活用できるようにしていくことが必要である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○「何がどうした」「何について説明されているのか」等、主述のつながりや要点がつかみやすい問いかけを行うことで、「読み解く力」を育てる。文章に線を引かせるなどして、文章構造が視覚的に分かりやすくなるようにする。 ○学習タイム時間を活用し、繰り返し学習したり、漢字テストを実施したりすることで既習事項の定着を図る。 ○例文を示すことで、文章の書き方の工夫が分かるようにする。 ○ICTを活用して、下書きをしてから正しい言葉や字に直したり、発表等の様子を録音・撮影をして再確認したりさせる。

【社会】

■児童の状況	○社会の仕組みや自分の生活に関わる事象に興味関心をもち、意欲をもって学習に取り組むことができています。 ○問題解決的な学習を通して、問題を設定し、調べ、まとめる活動を通して知識を増やしたり、思考力を・表現力を高めることができています。 ○それぞれの生活体験や興味関心の差によって、既知の情報や気付きに個人差がある。そのことが学習意欲にも差を生じさせている。
■指導についての課題	○興味関心の低い児童を授業にどのように引き付け、押さえるべきポイントをどのように定着させていくか。 ○資料から必要な情報を正しく読み取ることが難しい児童がいる。一つの資料から必要な情報を読み取ることと、資料同士を比較・関連付けて多角的に読み取ることの両面を指導していく必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○3・4年生は学習内容の中で身近な地域に関わる教材があるので、見学・体験活動を積極的に取り入れ、学習内容を実感的に理解できるように指導する。 ○5・6年生は学習内容が難しくなっている。見学・体験活動を取り入れにくいが見学や体験ができる学習内容については、できるだけ取り入れるようにしていく。また、デジタル教科書やNHK for Schoolなどの映像コンテンツを活用して理解しやすいように指導していく。 ○一人一台端末を活用して、自らすすんで調べたりまとめたりするなど、意欲的に学習できるようにしてきた。共同編集や学習したことの共有などを指導計画に効果的に位置付けて、協働的な学習を進めていく。 ○表やグラフの読み取り方を指導したり、複数の資料を比較・関連づけて考える指導を行ったりして、読み取る力を育てる。また、読み取って分かったことを知識として定着できるように書いてまとめる活動などを意図的・計画的に取り入れていく。

【算数】

■児童の状況	○前の学年で学習したことが概ね定着している児童が多い。 ○少人数指導を行うことで、自分の実態にあったクラス選びをすることができている児童が多い。 ○計算処理は得意でも、筋道を立てて考えたり、説明したりすることや時間の概念の把握が苦手な傾向が見られる。 ○単位交換や作図に苦手意識をもつ児童が一定数いる。
■指導についての課題	○基礎学力が十分に身に付いていない児童には、具体物を用いた操作活動を取り入れていく必要がある。 ○身のまわりにある数量や図形を用いた算数的活動を日常的に取り入れていく必要がある。 ○自力解決の時間や図や式を用いて自分の考えを表現させる時間を十分にとる必要がある。また ICT 機器を活用した発表方法を取り入れる必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○レディネステストを行い、個々の児童の実態を把握し、個に応じた指導や支援の在り方を工夫する。また、テスト返却の際に、解説・直しの時間を取り、定着を図る。 ○ペアや少人数で考えを伝え合うことができる児童は比較的多いので、個人→ペア・少人数→全体の流れを意識して指導を行い、より多くの児童が自信をもって説明できるようにする。また、ICT を活用して全体に共有し、児童が相互に考えを伝え合い、発展させていく協働的な学習活動を充実させる。 ○何を求める式か、答えが何を意味しているのか、常に問い返し考えさせることで、立式の根拠や筋道を立てて考える経験を積み重ねる。 ○見通しをもって問題に取り組むことができるようにするため、既習事項や他の単元とも関連付けながら横断的に指導を行っていく。 ○時計の概念は、デジタル時計ではなく時計を見て行動する習慣を付けるように指導する。

【理科】

■児童の状況	○自然環境を整備しているので、植物への関心は高く様々な植物を比較しながら、観察ができていた。 ○実験器具を使う機会が多いので、器具の扱いに慣れ安全に実験できるようになっている。 ○理科実験に対しての意欲が高い一方、結果を読み解いて考察へとつなげることが困難な児童が多くみられる。 ○継続的に探究心を維持することができず、植物の飼育を継続的にできない児童が見られる。
■指導についての課題	○自然環境の整備ができているが栽培への意識が低く、児童の自主的な自然環境への関わりや栽培していく意欲が低い。 ○実験機器の取り扱いに慣れてきているが、目的に合わせた実験機器の選択や、個々での実験計画ができず、機器の活用を指導する必要がある。 ○実験結果から考えられる『考察』や『まとめ』について、考える力を伸ばす必要がある。 ○理科が専科教科となったため、授業時間に制約があり、天候への対応や実験時間確保など、柔軟な対応ができない課題がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○より自然環境での実験を増やしていき、関心を高め、栽培や飼育への意識も育てていく。 ○実験活動の中で、自由進度学習を取り入れ、課題に対してどのような実験をすれば結果が求められるのか考えさせる授業を展開する。そうした活動を通して、目的に合った実験機器を取捨選択できる。理科の技能を身に付けた児童を

	育てる。 ○理科授業の流れを明確にして、「問題」⇒「実験方法」⇒「予想」⇒「結果」⇒「考察」⇒「まとめ」ができるように指導する。 ○毎時間のノート提出を継続して行い、『考察』『まとめ』が適切に記述できるように評価・指導していく。 ○理科授業が限られており、発展的な理科教材の扱いができないため、休業期間などを利用して『科学教室』を実施し、授業から発展した教材を扱い理科への関心の高い児童への指導をしていく。
--	---

【生活】

■児童の状況	○1年生のスタートカリキュラムにおいて、着替えや朝の支度など、身の回りのことをスムーズにできる児童と、そうでない児童の差が大きい。 ○花や野菜を育てる活動をした際、育てた経験がある児童もあり、意欲的に学習に入った。
■指導についての課題	○家庭と連携を取りながら生活上必要な技能の習得を進める必要がある。 ○活動内容が多いため、見通しをもって活動の計画を立てる必要がある。 ○猛暑のため、外での活動がかなり制限され、観察する時間や探検する時間を十分に確保できなかった。ICTを活用し、写真に収め、室内で観察カードを書く等の工夫が必要である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○猛暑を考慮して、活動の時期を早めたり、遅らせたりして、活動を行う。 ○上学年の総合的な学習の発表など、異学年交流をすることにより、一人一台端末の活用方法を知る。

【音楽】

■児童の状況	○どの活動にも意欲的に楽しく取り組む児童が多い。 ○コロナウイルス感染症対策で歌唱やリコーダーの活動が十分に行えていなかったため、その時期の技能を身に付けられていない。
■指導についての課題	○一人一台端末を効果的に取り入れた授業づくりを進める。 ○感じたことと気付いたことの関わりについて考えさせ、それらが生み出す曲のよさを味わわせる。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○一人一台端末を活用し、授業のめあてを確実に達成できるようにさせる。 ○日本や海外の音楽を聴いたり、実際に体験したりする機会を設け、音楽のよさや美しさを味わわせる。感想文を書く活動では、語彙カードや一人一台端末を活用して、感じたことと気付いたことを関わらせて書くことができるようにする。 ○異学年同士、演奏を発表し合う機会を設け、児童が音楽を楽しみ、意欲的に取り組めるようにする。

【図工】

■児童の状況	○全体的に図画工作に対して意欲的に取り組む児童が多い。材料に親しみ、新しい用具の習得にも関心をもって学習を進められている。一方で、自己調整力が十分に育成されていないために、設定された時間内で完成に至らない児童も各学級に1割程度いる。 ○想像力を広げて自分の想像の世界を広げるときに自信がなく、既存のキャラクターや表現に頼ってしまう児童が一定数いる。
■指導についての課題	○どの児童も知識・技能を習得できるように個別支援を確実に行う。授業の振り返りでは、その時間内に習得できたことを児童の言葉で振り返らせることで知

	識や技能の定着を図る。また、児童自身が課題を見付け、探求的に学ぶことができるように授業の提案をする。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○児童に題材を渡す際には、発想を膨らませられるような内容の精査をする。また、アイデアカードで発想を膨らませるだけでなく、体験をもとに発想を膨らませることができるように授業の設定をする。 ○ICTを活用し、すべての児童に同様に授業の目標が理解できるようにする。 ○図画工作科の教科性でもある、手や体全体の感覚を使って、材料や用具に親しみながら創造力を育む内容と、ICTを使った個別最適な学び、協働的な学びとのバランスを考えて授業カリキュラムや90分の授業展開を組む。 ○「自由進路学習」を意識し、材料や用具を見やすく、分かりやすい位置に配置したり、活用のアイデアを掲示したりすることで、児童自身が自己決定し、学び方を選んでいけるような環境づくりをする。

【家庭科】

■児童の状況	○自分の生活を振り返ったり、バランスのよい食事について考えたりすることで、自立して生活しようとする態度が芽生えてきている。 ○手縫い製作について、縫い方や用具の使い方などに興味をもち、積極的に取り組もうとしている。
■指導についての課題	○生活の中で使われる道具や学習用語について、実感を伴って理解させる必要がある。 ○自己の生活を振り返り、よりよい生活に向けて意識を高め実践していくために、作業や実習の時間を計画的に取り入れるよう設定する必要がある ○製作作業では、個人差が大きいので個別指導が必要である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○基礎基本を定着させるために1つ1つの作業を細分化したり、ICTを活用して分かりやすく把握できるようにしたりすることで、理解を深めたい。 ○実習や作業前には事前に教師や外部講師による示範動画を見たりして理解を促し、児童の意欲を喚起する指導を行う。

【体育】

■児童の状況	【低学年】 ○ほぼ全員が様々な活動に対して積極的に楽しんで取り組んでいる。 ○勝ち負けにこだわり、結果を受け入れられない児童が多い。 【中学年】 ○体力が向上したりできることが増えていたりすることで自信をもって活動に取り組んでいる。 ○ルールを守れずトラブルが生じることがある。 【高学年】 ○性別や能力差に関わらず、全員が楽しめるように工夫している。 ○苦手な種目（水泳・鉄棒・器械運動など）に対して消極的になりやすい。 ○ボールを扱う活動では、技能習得の差が非常に大きい。
■指導についての課題	○学習規律を守らせながら活動させる必要がある。 ○動作習得ができるよう、繰り返し取り組める機会を保障する必要がある。 ○活動内容を把握し、自分のめあてを振り返って考えさせる必要がある。 ○夏場の指導は、気温が高く、熱中症を考慮しながら進める必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○整列の仕方や合図の種類などを統一して使えるように指導し、どの学年でも同じように学習に取り組めるようにする。 ○話し合い活動を授業で積極的に取り入れ、動きのポイントを共有する時間や試す時間を適宜設け、動作習得がしやすくなるようにする。 ○ICTや学習カードなどを用いて、めあてに沿った学習をしたり自分の考えを記

	入したりすることで活動内容の把握や振り返りをしやすくする。 ○低・中・高学年の２年間ごとで学習内容を行えるよう計画し、進級の際に行った運動と行っていない運動の引き継ぎを行い、未実施にならないようにする。
--	---

【外国語】

■児童の状況	○教科書やピクチャーカードを見ながら英単語を意欲的に何度も復唱し、言葉の意味を理解しながら正しく発音しようとする児童が多い。 ○知っている単語や文などから、相手が伝えようとしている内容を理解する力が育っている。 ○A L TやC Dの音声を聞き取る活動では集中して正確に聞き取ろうと意欲的に取り組んでいる。 ○慣れ親しんでいる英単語や英文の習得に個人差があるので、積極的に発言する児童が偏る場合がある。
■指導についての課題	○自己表現する場面や対話的な学習における言語活動では、消極的だったり不安を感じたりして、声が小さくなる児童がいる。 ○アクティビティに参加する態度は積極的だが、学習活動のめあてを意識することが難しい児童がいる。 ○高学年では、既習の学習を基に音と文字とを結びつける力や会話文から大まかな内容を理解する力が必要である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○外国語を通して交流したり、国際理解を深めたりするよさを体験的に気付かせるため、A L Tや友達との言語活動の場面を十分に設定する。 ○I C T機器を効果的に活用し、歌やチャンツ、外国語の音声、基本的な言語に慣れ親しむ機会を設ける。 ○授業のめあてや英語での言語活動の目的を意識させ、学んだことが実感できるように振り返りを丁寧に行う。

【総合】

■児童の状況	○どの学年も見通しをもって、意欲的に取り組んでいる。 ○グーグルスライドを活用できるようになってきた。 ○高学年になると自分なりの課題を考えたり、伝える相手を意識したりしながら取り組めるようになっている。 ○必要な情報を的確に取捨選択したり、より適切にまとめたりすることが難しい。
■指導についての課題	○意欲的な児童が多い一方、苦手な児童の学習内容を理解するのに対する困難さが他教科に比べて大きく見える。 ○個々の課題に対する教員の指導が十分できていない。 ○調べ学習にとどまってしまう。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○グルーピングを工夫する。 ○教員が資料の提示の仕方を工夫する。 ○iCSに依頼し、地域の方や奨学会の方を講師として活用させていただく。 ○他教科でもまとめ方を工夫させていく。

【特別の教科 道徳】

■児童の状況	○今日は道徳の時間でどんな教材を読むのかな、と楽しみにしている児童が多い。 ○自分自身のこととして考えようとする様子が見られ、互いに考えを深めようとする児童が多い。
---------------	--

■ 指導についての課題	○意見の交流や話し合いを深める手段を教員が更に知っていくこと。 ○最初や2番目の発問を生かして中心となる発問をしたり、内容を深めるような補助発問を適宜したりすることで、内容項目についてじっくり考えさせられるようにすること。
■ 授業革新推進に向けての具体的な方策	○導入では児童がはっとするようなしかけを教師が行い、授業に入るための意識作りをする。 ○授業終わり部分の「自分自身について考える場面」では、これまでの発問や考えを生かした内容にすることができるよう、よく吟味した発問を行う。 ○終末では、児童にとって心に残るような教師の説話や取り組みの紹介をする等、更に工夫する必要がある。